

萬世リサイクルシステムズ株式会社

ゴミを燃料に変える。社会を変える。リサイクル最新事情



フィリピン セブ市のゴミの山

ゴミを見たら、資源と思え。

年間10万トンもの大量のプラスチック、木材の廃棄物を処理する大型工場を持つ、萬世リサイクルシステムズ株式会社。その工場の稼働現場を見たなら、瞬く間にゴミが資源化されていく様子に圧倒される。同社は2700坪の敷地を持つ、横浜市内でも最大級の廃棄物処理業者だ。主に廃プラスチック、木材系廃棄物の再資源化を得意とし、廃棄物から燃料を生み出し省エネに役立てている。燃料は製紙メーカーなどで、ボイラー燃料や製品原料として使われている。そうしたリサイクル処理において、同社がとくに優れているのは大量の廃棄物を処理し、なおかつ不純物を取り除き安定した品質の再資源化に取り組んでいるところだ。

廃材から木くずチップ、廃プラから燃料をつくる

「木材系廃棄物は、主に建築廃木材や物流用木パレットなどを処理しています。これを燃料チップ製造装置により、木くずチップにするのです。その処理能力は396.36t/日になります。廃棄物である木材は、釘やアルミなどが付いて

入ってくることも多いのですが、私たちの工場ではそうした不純物も機械で除去できるよう、高性能のシステムになっています。そうやって生み出だされた木くずチップは製紙メーカーで、燃料や製紙原料としてリサイクル活用されます」

一方、廃プラスチックに関しては、細かく粉砕し熱を加えずに圧縮梱包されるフラフ燃料と、マテリアルリサイクルが困難な他の木くず、紙くず、繊維くず、ゴムくずなども混合した RPF と呼ばれる固形燃料の2種類が作られている。こうした燃料は、石炭や石油の代替燃料としてリサイクル活用されている。

「廃プラスチック類は、塩化ビニールが混ざってしまうことも多いのですが、これも除去装置によって省いています。また風力によって選別したり、時には炎の色で職人が見分けるなど、不純物を取り除く技を徹底させているところは、当社の強みです」



フィリピン セブ島の社会を変える、リサイクル事業

そうしたリサイクル処理の技術は、海外でも必要とされ、フィリピンのセブ市では、2014年より JICA の普及・実証事業として、廃プラスチックリサイクル施設の設置、運営指導を行っている。

「海外、とくに発展途上国ではプラスチックゴミの増加の問題があります。リサイクル施設をつくることで、ゴミを減らし、なおかつ雇用を創出することができるのです。ウエストピッカーと呼ばれる貧しい労働者たちも、工場の社員

として雇用することで、みんなの意識が変化してきました」

横浜市内で培われたリサイクル技術と、環境への取組みは、いま発展途上国の社会の仕組みを変える技術へと進化しつつある。



セブ島のリサイクル施設。労働者への教育も行っている。

会社概要

萬世リサイクルシステムズ株式会社

取締役社長：松井 貢

本社：横浜市金沢区鳥浜町 17 番地 3

TEL：045-769-2526 FAX：045-771-9122

設立：2001年3月

事業内容：各種廃棄物の処理、再資源化、廃棄物総合コンサルティング。

URL：<http://www.yokohama-re-style.com>